

平成28年度 小松市立東陵小学校 学校評価結果報告書

小松市立東陵小学校

	自己評価				学校関係者評価	次年度に向けての改善計画
	評価項目と具体的取組	評価指標	達成度判断基準	取組の状況		
① 組織的な学校運営	<p>〈PDCAサイクルの充実〉</p> <p>各種部会を効果的に機能させ、PDCAサイクルによる評価分析・課題解決の充実を図る。【学びの指針11条】</p>	【努力指標】	<p>PDCAサイクルを意識して</p> <p>A: 十分取り組んでいる</p> <p>B: 取り組んでいる</p> <p>C: あまり取り組んでいない</p> <p>D: 取り組んでいない</p>	<p>昨年度から継続して学校評価分掌部会、学校評価全体会を設けたことで、職員全員参加による組織的な計画・実行・評価・改善のサイクルがシステム化された。学期毎に取組の改善・充実が図られていた。</p>	<p>A</p> <p>・学校評価分掌部会及び、学校評価全体会を機能化し、全職員による取組が進められている。昨年度からの継続でPDCAサイクルが確立し、充実の方向にある。</p> <p>・不登校の児童がいなかったことだが、学校で組織的にチームで対応していることが功を奏しているのだから。不登校にはいろいろな原因があるので、個に応じた対応を今後もお願いしたい。</p>	<p>■PDCAサイクルによる組織的な学校評価のシステム化が行われたので、微調整を加えながら継続した取組として定着させていく。評価方法が昨年度よりも精選され、焦点化されたので、比較検証を行う上でも、今年度の評価方法を次年度も継続していく。</p> <p>■いじめの早期発見・対応のための手立てとして、職員対象の「いじめ自己点検カード」の作成・活用を検討していく。</p> <p>■新学習指導要領の実施に向けた研修会を計画的に実施してことで、新たな教育への対応力を高めている。</p>
	<p>〈いじめ・不登校早期発見・対応〉</p> <p>生徒指導の3機能を重視し、組織的に諸問題の未然防止・早期発見・早期対応を行う。</p>	【成果指標】	<p>アンケートの肯定的回答割合</p> <p>A: 85%以上</p> <p>B: 70～84%</p> <p>C: 50～69%</p> <p>D: 50%未満</p>	<p>授業チェックカードを活用し生徒指導の3機能を意識した授業実践を推進した。各種アンケート、児童理解の会、個別面談の実施により、情報収集・共通理解に努め、組織的に諸問題に対応できた。</p>		
	<p>〈指導力の向上〉</p> <p>教職員の授業力、生徒指導力、学級経営力の向上のため、校内研修を充実させ、人材育成を図る。【学びの指針10条】</p>	【努力指標】	<p>人材育成を意識して</p> <p>A: 十分取り組んでいる</p> <p>B: 取り組んでいる</p> <p>C: あまり取り組んでいない</p> <p>D: 取り組んでいない</p>	<p>本校の現状や課題を踏まえて、目的を明確にした研修会が、様々な分野で開催された。職員会議時にミニ研修会を設け、実践交流・研修会報告・最新教育情報提供等を行い、指導力の向上につながった。</p>		
② 確かな学力の育成	<p>〈学力の定着〉</p> <p>学習規律の徹底、効果的なチャレンジタイムの実施により、学習内容の確実な定着を目指す。【学びの指針3・5・10条】</p>	【成果指標】	<p>各種調査・テストの正答率が</p> <p>A: 十分満足できる</p> <p>B: 満足できる</p> <p>C: あまり満足できない</p> <p>D: 満足できない</p>	<p>「授業のきまり4か条」による学習規律の取組、学力調査問題を活用した帯タイムの取組が共通理解のもと、進められた。各種学力調査結果から若干の学年差はあるが、学習内容の定着状況は良好であると言える。</p>	<p>A</p> <p>・学力の定着には、いろいろな大切な要素がある。学習規律の取組や授業以外の時間を活用した取組に工夫が見られるので、全学年で取組を進めてほしい。</p> <p>・図書ボランティアの方が増えてきており、地域とのつながりが深まっていると感じる。図書ボランティアの方が、それぞれの学年に合った本を選んで読み聞かせを行っている活動は大切に継続してほしい。</p>	<p>■学力向上委員会を中心に学力向上プランを推進し、各取組の充実を図る。「授業のきまり4か条」については、評価規準を高めて、授業規律の徹底を行う。学力の2層化に関しては、補充学習のサポート体制の工夫を行う。</p> <p>■小松市指定「学力向上パートナーシップ推進事業」の更なる充実を図る。学校研究の柱に「学び合いの場の充実」を掲げ、ねらいに迫る授業展開のスタイルを構築していく。</p> <p>■今年度の並行読書の取組を学年ごとに記録に残し、それをベースにして並行読書の取組を拡大していく。</p>
	<p>〈授業力の向上〉</p> <p>授業改善強化ポイントを意識し、主体的・協働的な学びのある学習活動の充実を目指す。【学びの指針6条】</p>	【努力指標】	<p>授業改善強化ポイントを意識して</p> <p>A: 十分にに取り組んでいる</p> <p>B: 取り組んでいる</p> <p>C: あまり取り組んでいない</p> <p>D: 取り組んでいない</p>	<p>全教科において授業改善強化ポイントを意識した共通実践が進められた。課題設定・まとめ振り返りについては、取組が定着してきているが、児童主体の学び合いの場の充実が課題であり、手立ての工夫が求められる。</p>		
	<p>〈読書活動の充実〉</p> <p>教科学習と関連させた並行読書の実施及び読書環境の整備に努め、読書活動の充実を目指す。</p>	【努力指標】	<p>並行読書・読書環境整備に</p> <p>A: 十分取り組んでいる</p> <p>B: 取り組んでいる</p> <p>C: あまり取り組んでいない</p> <p>D: 取り組んでいない</p>	<p>並行読書に関しては、学校研究と関連させたことで、国語科を中心に共通実践が進められた。図書室以外の場所でも、読書に親しめるように環境整備を行ったが、家庭での読書習慣が広まる手立てが今後求められる。</p>		
③ 豊かな人間性の育成	<p>〈人間関係力の向上〉</p> <p>児童会を中心とした縦割り活動を充実させることで、人間関係力の向上と共に高学年のリーダーシップの育成を図る。</p>	【成果指標】	<p>人間関係力の向上に</p> <p>A: 好ましい変容がみられた</p> <p>B: 変容が少しみられた</p> <p>C: 変容がみられない</p> <p>D: 後退の状況がみられた</p>	<p>児童会を中心とした縦割り活動を計画的・意図的に行うことで、異学年同士の交流、高学年のリーダーシップの育成を進めることができた。特に、高学年はこれらの活動を通して自己有用感を高めることもできた。</p>	<p>A</p> <p>・授業をより分かりやすくするために、パソコンやプロジェクター等、効果的だと思われるものを活用していることがよいと思う。ICTの活用には抵抗感のある教師でも、気軽に授業で活用できるように、環境整備を進めていることも分かった。</p>	<p>■縦割り活動として定着しているものを一度見直し、目的・方法を検討したり、新たな活動と入れ替えることで、マンネリ化を防ぐ。</p> <p>■「特別の教科道德」の実施に向けて、道德教育全体計画及び道德教育年間指導計画の見直し・修正を行う。また、道德教育重点項目を立てる際には、家庭・地域のニーズも考慮した上で行えるように保護者アンケートを実施する。</p> <p>■ICTの活用が更に定着していくように、視覚機器の環境整備を計画的に進めていくと共に、ICTの活用例を具体的に提示していく。</p>
	<p>〈道德教育の充実〉</p> <p>道徳授業の充実及び家庭や地域と連携した道徳教育の推進を図ることで、豊かな心を育む。</p>	【努力指標】	<p>道徳教育の推進を意識して</p> <p>A: 積極的に取り組んだ</p> <p>B: 取り組んだ</p> <p>C: あまり取り組んでいない</p> <p>D: 取り組んでいない</p>	<p>授業改善につながる研修会を実施したことで、発問や板書の工夫への意識が高まった。道徳通信の定期的な発行、授業公開等を行うことで、家庭や地域への効果的な発信を行うことができた。</p>		
	<p>〈ICT活用や情報教育の充実〉</p> <p>効果的なICTの活用、情報モラル教育の推進に努め、情報教育の充実を目指す。【学びの指針7条】</p>	【努力指標】	<p>ICT活用や情報モラル教育の推進に向けて</p> <p>A: 十分にに取り組んでいる</p> <p>B: 取り組んでいる</p> <p>C: あまり取り組んでいない</p> <p>D: 取り組んでいない</p>	<p>ICTの環境整備が進められたことで、授業の中でのICT活用が、全学年で様々な教科を通して日常的に行われるようになってきた。小松市情報モラル系統表をもとに実践を深めていくことに課題が見られた。</p>		

	自己評価				学校関係者評価	次年度に向けての改善計画	
	評価項目と具体的取組	評価指標	達成度判断基準	取組の状況	達成状況		学校関係者評価者による意見
④ 健やかな体の育成	<体力・運動能力の向上>	【成果指標】	体力・運動能力に関して A:好ましい変容がみられた B:変容が少しみられた C:変容がみられない D:後退の状況がみられた	シャトルラン・持久走大会の取組を強化し、共通実践を進めることで、持久力を向上させることができた。跳躍力・投力を意識した運動として、スポチャレいしかわの8の字跳び・シャトルボールに全校的に取り組むことができた。	A	・食育授業は栄養教諭と担任が連携して行っているようだが、全学年で「感謝の気持ちを持つ」ことをテーマに進められたことが分かった。この学習で児童の意識が高まったが、給食の残飯の量に課題があるようなので、効果的な手立てが行われるとよい。	■今年度の取組で持久力の向上が見られたので、来年度は新体力テストで課題の見られた50m走・立ち幅跳びに関する取組を進めていく。共に跳躍力が関わる運動なので、準備運動の段階から工夫を行ってきたい。
	<基本的な生活習慣の確立>	【成果指標】	望ましい生活習慣を身に付けた児童が A:85%以上 B:70～84% C:50～69% D:50%未満	強化週間の設定・保健だよりの発行を定期的に行うことで、児童及び保護者の生活習慣改善への意識化を図ることができた。特に起床時間・メディア利用時間で良好な結果が見られた。	B	・基本的な生活習慣にメディアの時間も含まれると思うが、ノーメディアデーの進め方等、家庭の協力を得られる形で実施していくとよい。	■生活習慣の強化週間及び取組カードの継続を行い、それに連動させて保健だよりの発行・保健指導の充実を図っていく。
	<保健・食育指導の充実>	【満足度指標】	アンケートの肯定的回答割合 A:85%以上 B:70～84% C:50～69% D:50%未満	計画的に栄養教諭と連携し、全学年において食育の授業を実践し、食べ物を大切にすることを意識を高めることができた。調理員への感謝・食事の大切さを実感させることはできたが、給食の完食率に関しては、まだ十分とは言えない。	B		■栄養教諭と連携した食育授業を継続して行う。給食委員会の活動を更に充実させて食に対する意識を高め、児童の生活改善力の向上を図っていく。
	保健・食育の学習を通して、自己の生活を振り返り、生活改善力を育成する。【学びの指針8条】	保健・食育の学習を通して、自己の生活改善力の向上を実感している。					
⑤ 家庭・地域との連携	<あいさつのできる子の育成>	【満足度指標】	アンケートの肯定的回答割合 A:85%以上 B:70～84% C:50～69% D:50%未満	小中連携による中海中との合同挨拶運動・児童会による挨拶運動を通して、気持ちのよい挨拶を行おうとする気運を高めることができた。更に、主体的に挨拶をする意識を高めるために、手立ての工夫が求められる。	B	・保護者アンケートの回収率、奉仕作業や教育講演会等の育友会行事への保護者の参加率が、数年前よりもかなり向上してきていることはよいことである。	■挨拶運動の企画・運営に工夫を加え、児童会中心としながらも全校的な取組となるようにしていく。
	<家庭学習の充実>	【成果指標】	学年目標の達成率が A:85%以上 B:70～84% C:50～69% D:50%未満	家庭学習がらばりカード、家庭学習通信の発行、学向上掲示板の活用を連動させて行うことで、家庭学習習慣の向上を図ることができた。家庭学習の学年目標時間の達成率は目標値を超えることができた。	A	・保護者への情報発信の手段としてホームページがあるが、どのように充実させていくのか。家庭や地域のニーズに沿ったものになるとよいと思われる。	■家庭学習の量についてはこれまでの取組を継続し、学習内容の質については自学の取組を更に充実させることで授業とつながるものにしていく。
	<開かれた学校づくり>	【満足度指標】	アンケートの肯定的回答割合 A:85%以上 B:70～84% C:50～69% D:50%未満	各種通信の発行、授業公開・学級懇談会の実施、保護者アンケートを活用した学校評価の実施等により、学校と家庭・地域との双方向の連携が図られるようにした。家庭・地域の学校への協体制も年々向上してきている。	A		■評価項目は「開かれた学校づくり」となっているが、文部科学省では、「地域に開かれた学校から、地域とともにある学校へ」転換することが推進されている。これを受けて、学校と地域がよきパートナーとして共通の目指す子供像を持ち、一体となって取組を進めていけるように、更なる取組の充実を図っていく。
	授業公開・通信・学校評価等を通して、家庭・地域とつながる取組を行い、地域に開かれた学校づくりに努める。【学びの指針9・12条】	家庭や地域とつながる取組を行い、保護者・地域の方から理解や協力が得られた。					